

最近の管内経済概況

(2022年11月の経済指標を中心として)

～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、弱い動きとなっている。
- 個人消費は、緩やかに持ち直している。
- 観光は、緩やかに改善している。
- 公共工事は、減少した。
- 住宅建設は、持ち直しの動きに弱さがみられる。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、緩やかに持ち直しの動きがみられる。
- 企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加した。

全体として、管内経済は、持ち直しの動きに弱さがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2023年1月18日

照会先：経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：bzl-hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L：https://www.hkd.meti.go.jp

管内経済概況判断の推移

(2023年1月現在)

発表月	2022年8月(※)	9月(※)	10月	11月	12月	2023年1月	前月との判断比較
総括判断	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	
生産活動	弱含みとなっている	弱含みとなっている	弱含みとなっている	弱含みとなっている	弱含みとなっている	弱い動きとなっている (↘)	
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる (↗)	緩やかに持ち直している (↗)	
観光	緩やかに持ち直している (↗)	持ち直している (↗)	持ち直している	持ち直している	緩やかに改善している (↗)	緩やかに改善している	
公共工事	減少した	増加した (↗)	減少した (↘)	増加した (↗)	減少した (↘)	減少した	
住宅建設	弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる (↗)	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる (↘)	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる (↗)	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる	
企業倒産	件数、負債総額とも増加した	件数は同数、負債総額は減少した	件数は増加、負債総額は減少した	件数は増加、負債総額は減少した	件数、負債総額とも増加した	件数は減少、負債総額は増加した	

上方修正 据え置き 下方修正

(※) 8月(6月指標)及び9月(7月指標)については、10月に発表。

注：下線部は、前月から判断を変更した部分。

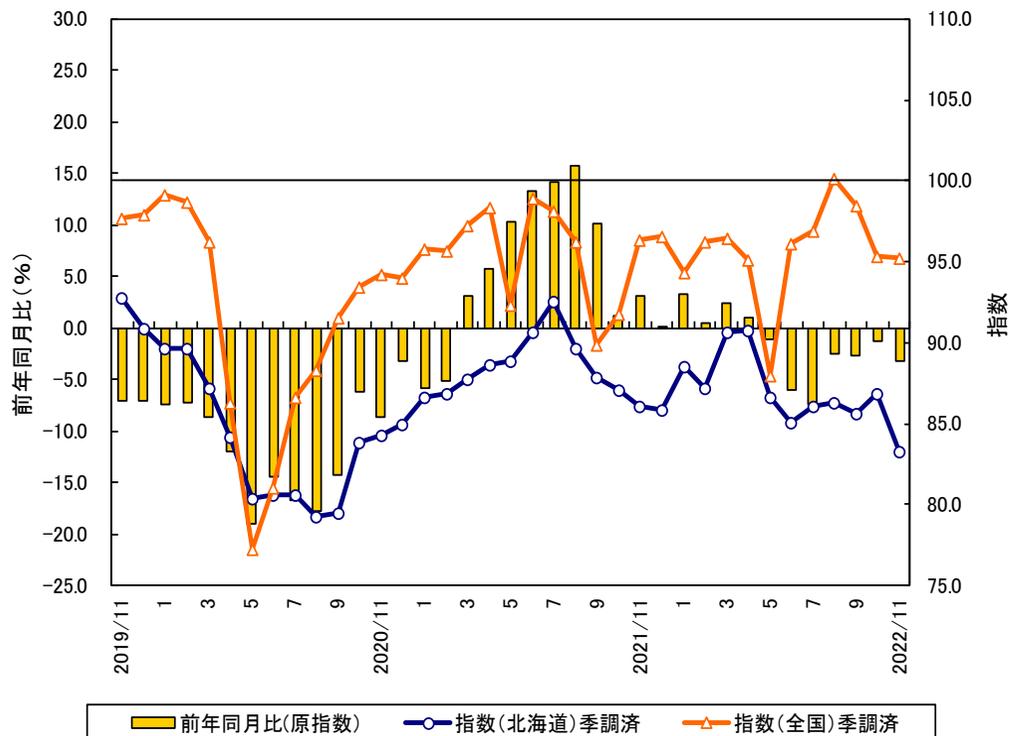
生産活動 ～ 弱い動きとなっている ～

11月の鉱工業生産は、前月比▲4.1%と2か月ぶりに低下した。前年同月比は▲3.3%と7か月連続で低下した。低下業種は、化学・石油石炭製品工業など8業種となった。上昇業種は、パルプ・紙・紙加工品工業など7業種となった。

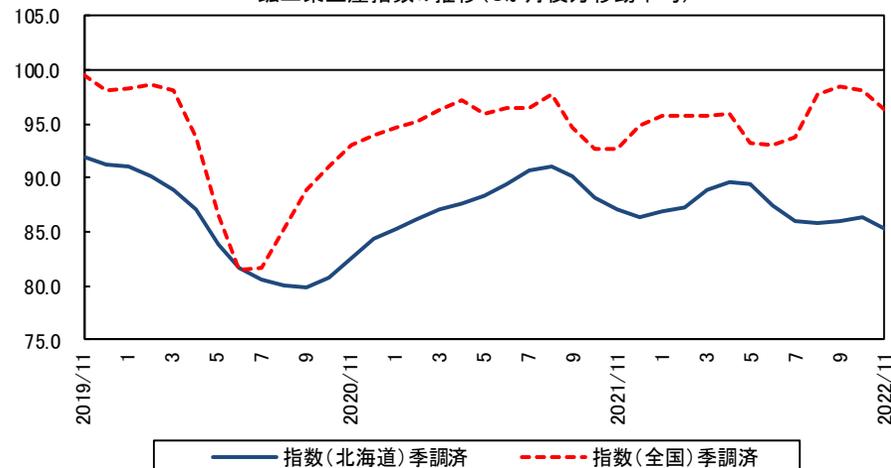
< 11月 >	
季節調整済指数	
北海道 (速報)	83.3 (前月比▲ 4.1%)
全国 (速報)	95.2 (前月比▲ 0.1%)

	業 種	前月比 (%)	前年同月比 (%)	主な品目
低下 8業種	化学・石油石炭製品工業	▲ 19.2	▲ 0.7	化学・石油石炭製品
	輸送機械工業	▲ 11.2	▲ 14.8	自動車部品
	食料品工業	▲ 3.5	▲ 1.8	冷凍水産物
上昇 7業種	パルプ・紙・紙加工品工業	+ 3.5	▲ 2.3	印刷用紙 (塗工)

鉱工業生産指数 (2015年=100.0)



鉱工業生産指数の推移(3か月後方移動平均)



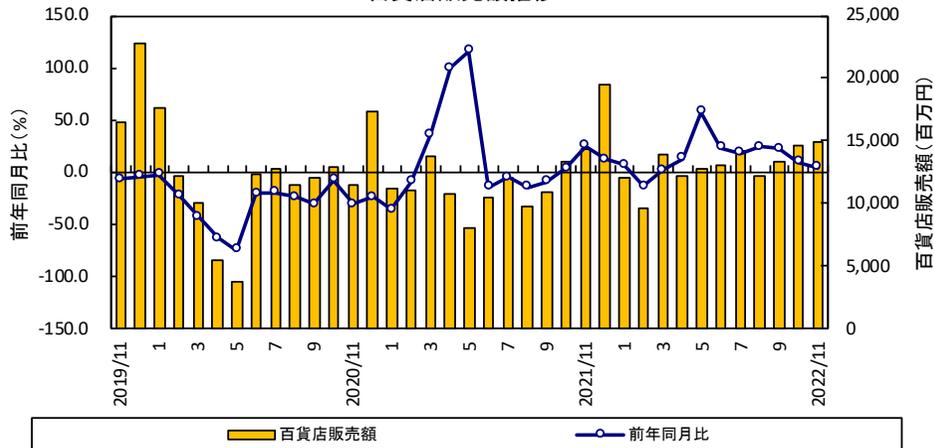
(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

個人消費 ～ 緩やかに持ち直している ～

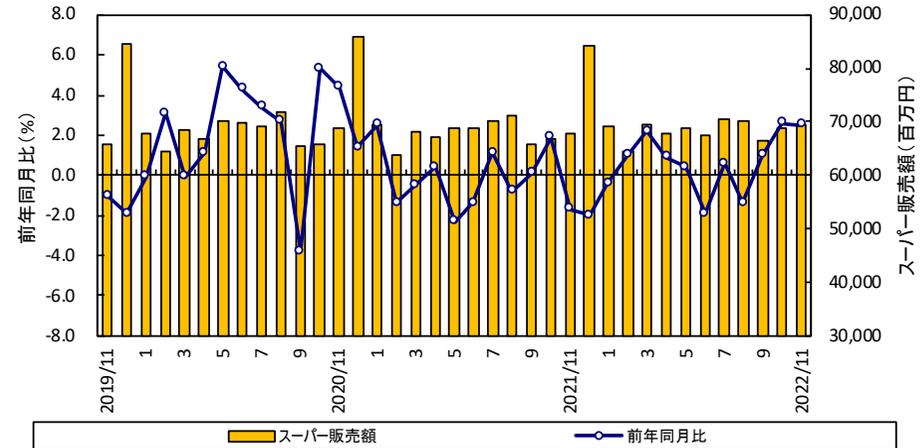
1 1月の個人消費は、家電大型専門店、ホームセンターは前年を下回ったものの、他の5業態は前年を上回った。

- 百貨店は、飲食料品の売上げが不調だったものの、高級ブランド品などの高額商品が好調で、前年同月比+4.0%と9か月連続で前年を上回った。
- スーパーは、衣料品などの売上げが不調だったものの、飲食料品は全体的に値上げの影響もあり売上げが増加し、同+2.5%と3か月連続で前年を上回った。
- コンビニエンスストアは、同+7.4%と13か月連続で前年を上回った。

百貨店販売額推移

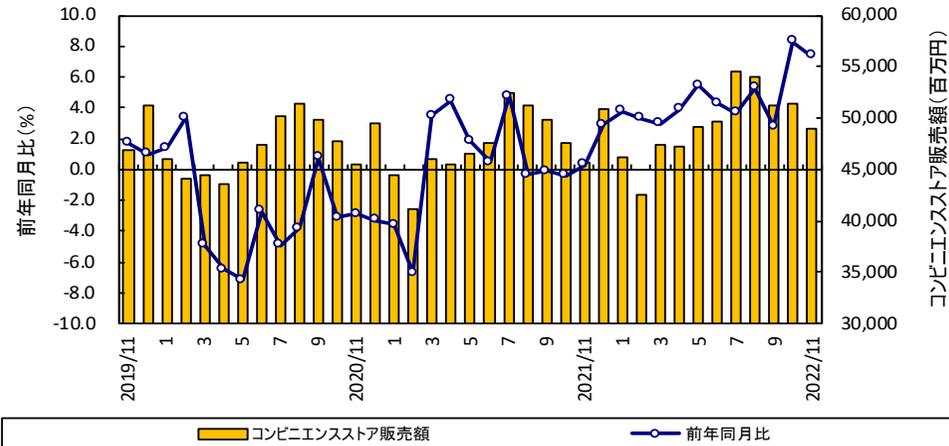


スーパー販売額推移



※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

コンビニエンスストア販売額推移

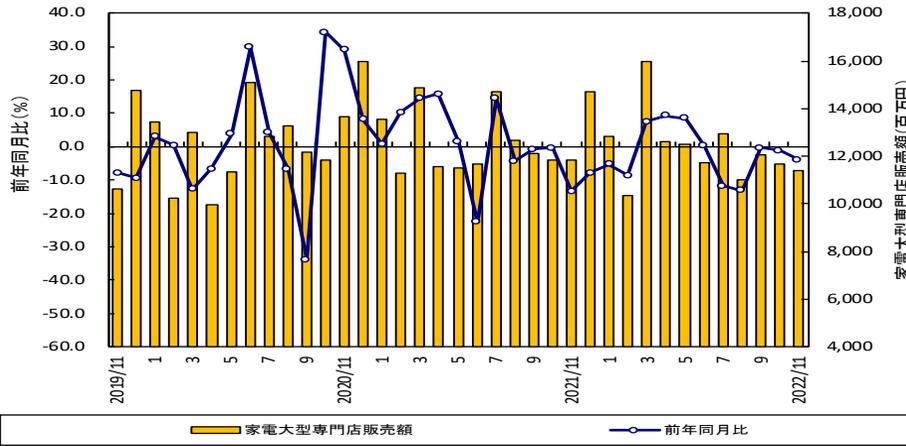


【ヒアリング内容】

- 高級ブランド品などの高額商品が引き続き堅調に推移しているほか、インバウンド販売額も回復傾向にある。(百貨店)
- 飲食料品は全体的に値上げの影響がみられ、客単価が上昇している。水産物は価格が高騰しており、売上げが低調だった。一方で、単価は決して安くはないが、生すじこはよく売れた。衣料品は気温が平年よりも高く降雪量も少なかったことから、冬物衣料の出足が良くなかった。(スーパー)
- 外出の機会が増えたほか道外からの旅行客も増えており、札幌市中心部や観光地の売上げが好調だった。インバウンド向けの観光地は回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準には届いていない。(コンビニエンスストア)

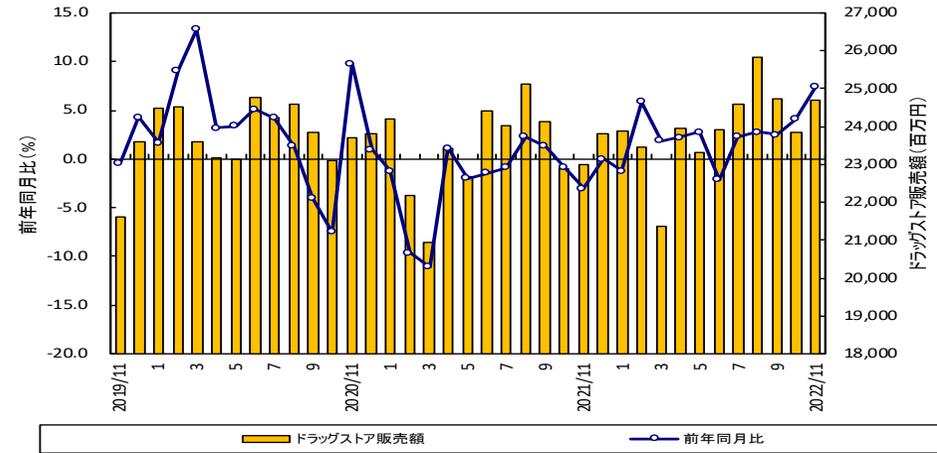
- ・家電大型専門店は、同▲3.9%と5か月連続で前年を下回った。ドラッグストアは、同+7.4%と5か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同▲0.1%と2か月ぶりに前年を下回った。
- ・新車販売は、同+9.1%と3か月連続で前年を上回った。

家電大型専門店販売額推移



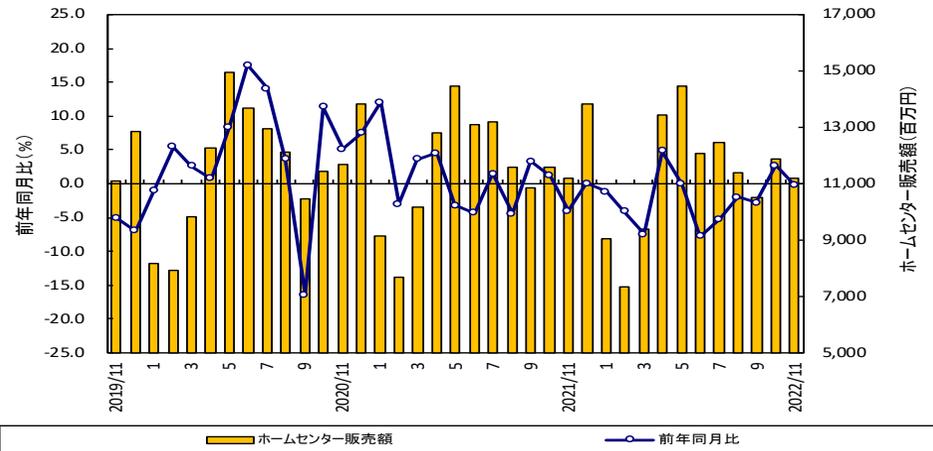
(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

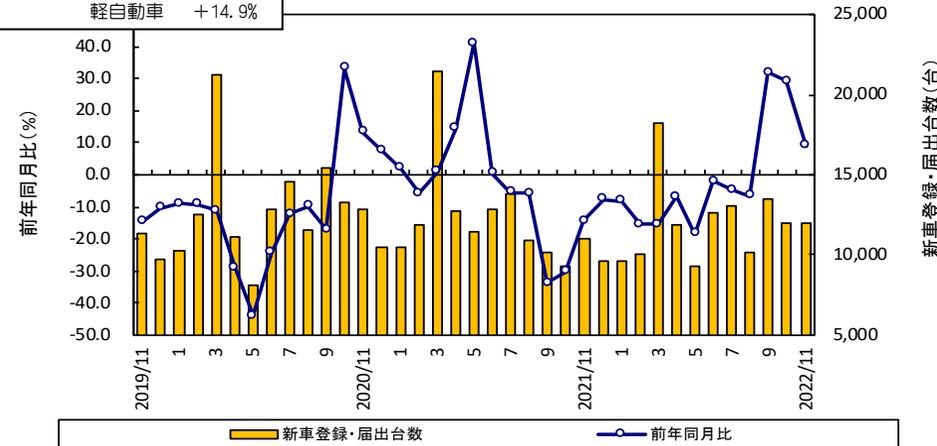
ホームセンター販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

<11月> 普通乗用車 +11.2%
小型乗用車 +0.1%
軽自動車 +14.9%

新車登録・届出台数推移



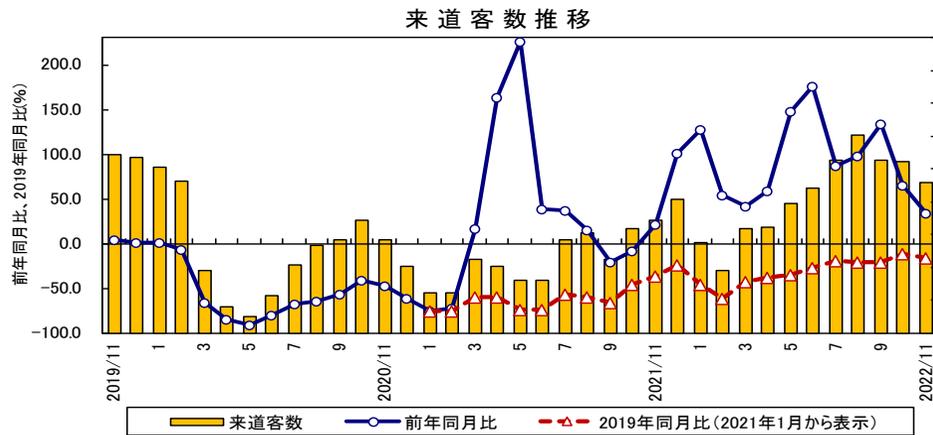
(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

【ヒアリング内容】

- ・物価の上昇により生活必需品への出費が増えているためか、客数が減少した。前年好調だったエアコンの売上げが今年は良くなかった。(家電大型専門店)
- ・外出の機会が増加していることから、化粧品の売上げが引き続き好調だった。新規感染者数が増加したことから、解熱鎮痛剤や風邪薬など医薬品の売上げが増加した。(ドラッグストア)
- ・平年よりも降雪量が少なかったことから、園芸用品や外回り関連用品の売上げは好調だったものの、スコップなど除雪関連用品の売上げが良くなかった。(ホームセンター)

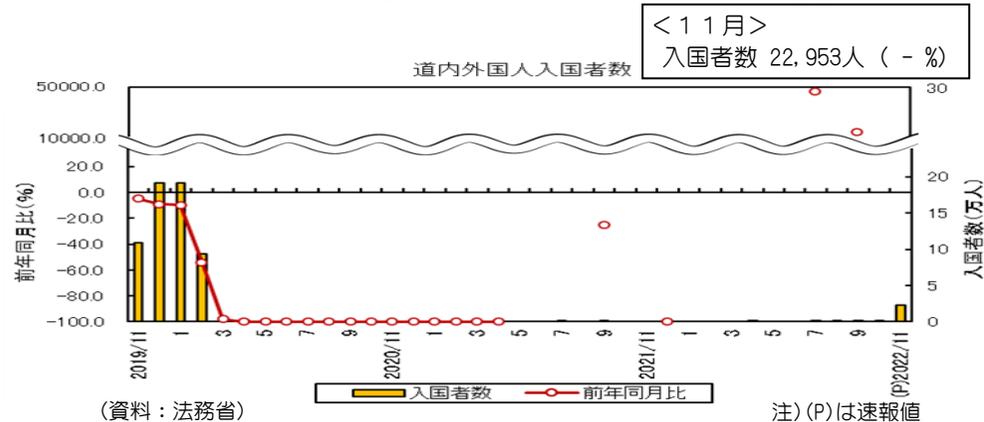
観光 ～ 緩やかに改善している ～

11月の来道客数は、前年同月比+33.0%（2019年同月比▲15.6%）と13か月連続で前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、22,953人であった。



< 11月 > 来道客数 918,101人 (+33.0%)
 ※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

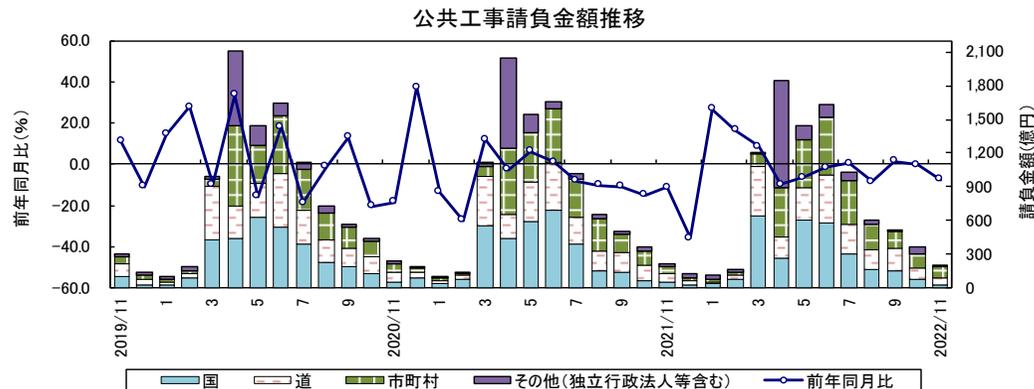


【ヒアリング内容】

- ・ 11月は全国旅行支援により関東や関西からの観光客が多い印象で、宿泊実績も週末を中心に前年より良かった。12月も引き続き週末の宿泊者数が伸びていることに加え、スキーを目的とした修学旅行の受け入れもあり、宿泊者数は前年より増加すると見込まれる。また、インバウンドでは、コロナ禍前と比べると少ないが、アジア圏の中でも特に韓国からの観光客が個人・団体とも多くみられるようになった。(観光協会)

公共工事 ～ 減少した ～

11月の公共工事請負金額は、市町村は前年を上回ったが、国、道が前年を下回り、前年同月比▲7.6%と2か月連続で前年を下回った。



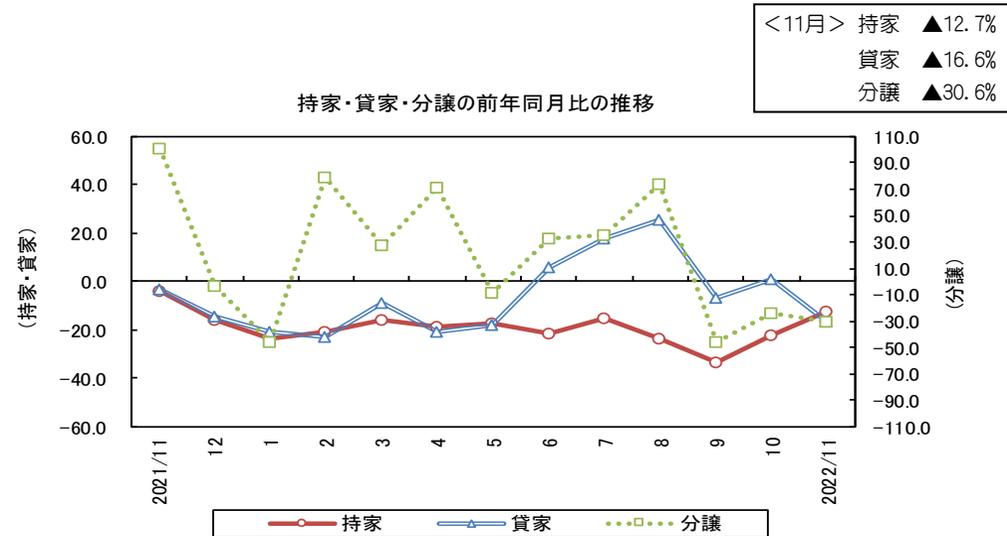
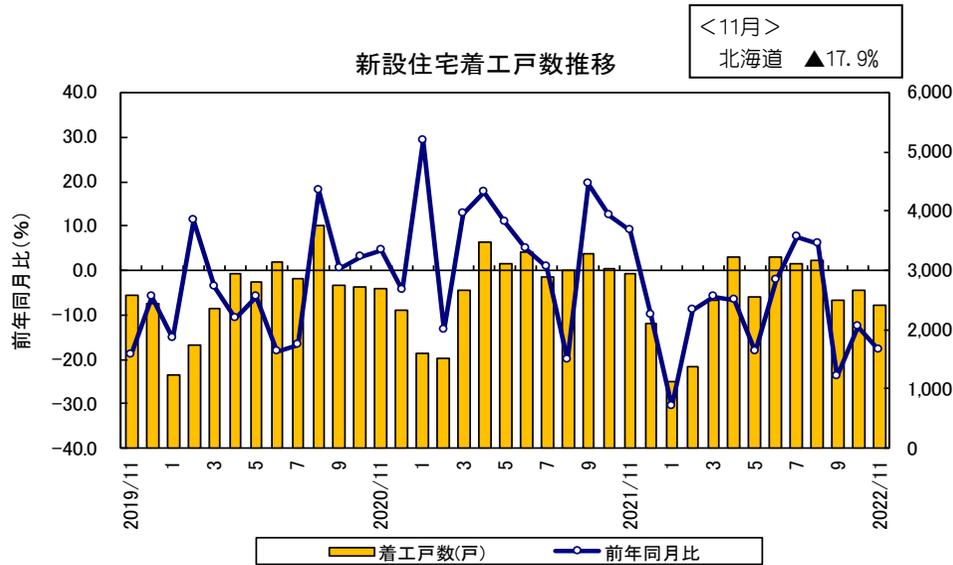
< 11月 >
 北海道 ▲ 7.6%
 (内訳)
 国 ▲ 48.6% 道 ▲ 17.5% 市町村 +64.4% その他 ▲ 63.7%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

1 1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲の全てで前年を下回り、前年同月比▲17.9%と3か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2022年度の設備投資計画は、全体で前年度比+12.5%と3年ぶりに前年度を上回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2022年12月14日発表

	2021年度	2022年度
北海道	▲ 5.5%	+ 12.5%
製造業	▲ 37.0%	+ 47.7%
非製造業	+ 13.2%	+ 1.5%
全国	▲ 0.8%	+ 15.1%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2022年12月12日発表

	2021年度	2022年度
全産業	▲ 19.5%	+ 31.0%
製造業	▲ 19.2%	+ 44.3%
非製造業	▲ 19.6%	+ 27.8%

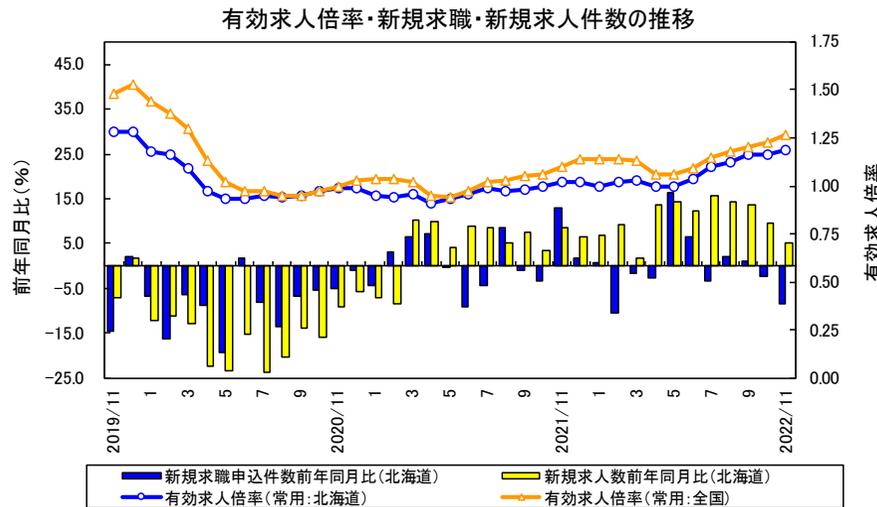
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 緩やかに持ち直しの動きがみられる ～

11月の有効求人倍率は、1.19倍と前年同月差0.17ポイント上昇し、18か月連続で前年を上回った。

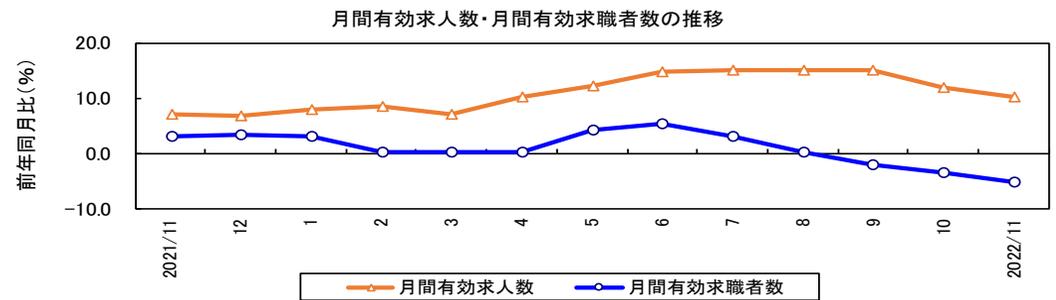


< 11月 >

北海道	有効求人倍率(常用)	1.19倍
	新規求人人数(前年同月比)	+ 5.2%
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲ 8.3%
全国	有効求人倍率(常用)	1.27倍

< 11月 >

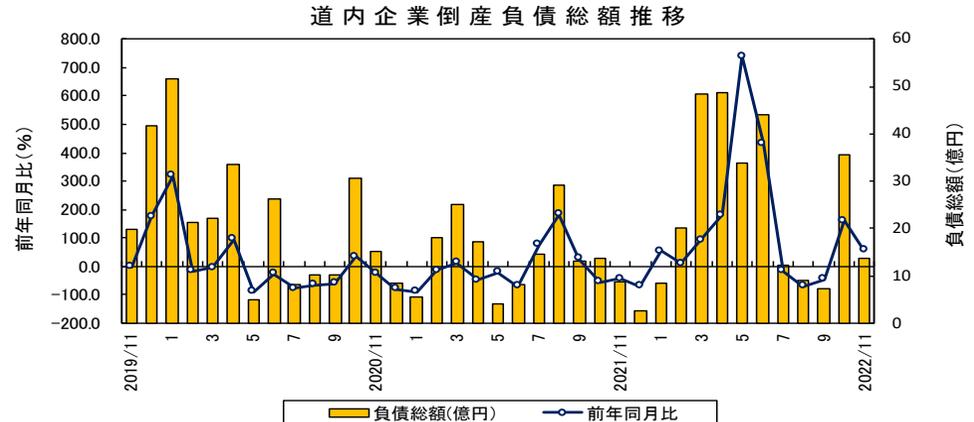
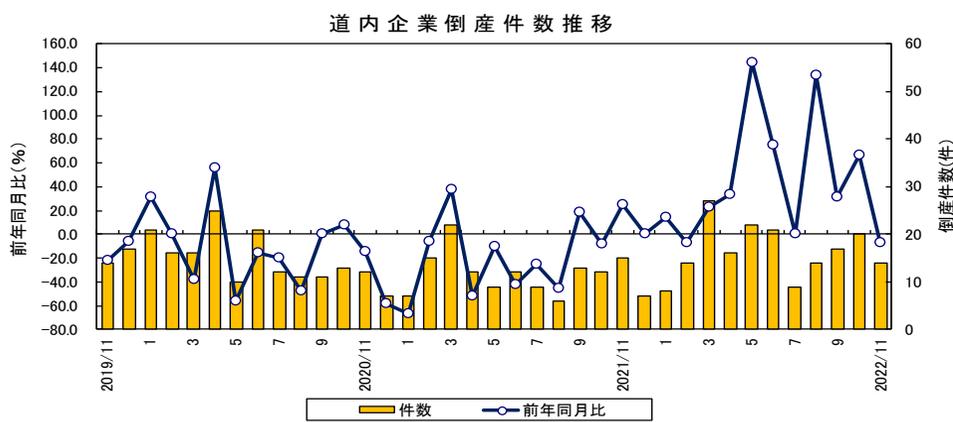
月間有効求人数(前年同月比)	+10.3%
月間有効求職者数(前年同月比)	▲ 5.1%



(資料：厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数は減少、負債総額は増加した ～

11月の倒産件数は14件で、前年同月比▲6.7% (1件減) と9か月ぶりに前年を下回った。また、負債総額は13.8億円で、同+57.4%と2か月連続で前年を上回った。



(資料：(株)東京商工リサーチ)